

## 「掘って」・「彫って」 つくりあげた 大谷石の文化

大谷石の産地・宇都宮では、石を「ほる（掘る・彫る）」文化、掘り出された石を変幻自在に使いこなす文化が連綿と受け継がれています。



楔を打ち込んで大谷石を彫り出す石工 撮影協力：大谷石産業株式会社、宇都宮美術館

### 「掘る」

石を「掘る」文化の証が、かつて大谷に約 250 ヶ所あったという採掘場とその跡地です。大谷の採掘場の多くは地下にあり、地表下 100m に設けられた採掘場もあります。地下採掘場の天井高はおよそ 30m、全てがひとつの石の塊で、壁面に採掘の痕跡が残ります。

昭和 30 年代に機械が導入されるまで、採掘は手作業で行われ、わずか 18×30×90cm の石材 1 本を切り出すために、石工は約 4,000 回もツルハシを振るったと言われています。



大谷石採掘の道具（大谷資料館）



大谷石の建築装飾を彫る石工 撮影協力：大谷石産業株式会社、宇都宮美術館

### 「彫る」

やわらかな大谷石は様々な表現・活用を可能とし、多様なデザインを欲した都市づくりに重宝されてきました。

レリーフを施した大谷石を複雑に組み合わせ、象徴的な建築に独特な装飾を施したり、「無事かえる」ことを願ったカエルの工芸品を彫ってみたい。

石工は巧みな技で大谷石を彫り、変幻自在に操ります。その手仕事は宇都宮を訪れる人々を魅了します。



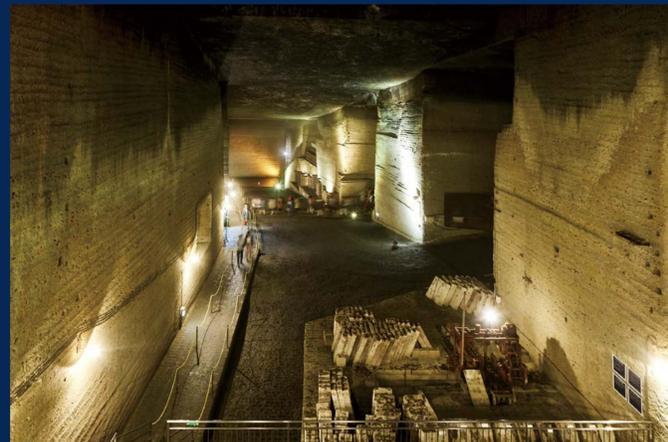
大谷石の「無事カエル」



カネホン採石場（日本遺産構成文化財）



ホテル山（トウヤ採石場、日本遺産構成文化財）



カネイリヤマ採石場（大谷資料館、日本遺産構成文化財）